

越中井波

よいやさ祭り

五月三日

(前夜祭 五月二日)

神輿

今から175年前の天保四年(1833)に神輿渡御が始まりました。渡御というのは、神輿に乗られた氏神が氏子の住む家々へお渡りになるという意味です。現在、四角、八角、六角の大の輿が三基と子の輿が三基あり、大の輿は四角(壺之輿)が一番先頭で次いで八角(貳之輿) 六角(参之輿)の順になっていて重量はどれも1t以上あります。この各神輿を約40名づつの力者が肩で担いで、御旅所から渡御を開始して氏子町内を巡行していきます。夕方、八幡宮に到着して境内を周回するときは最高潮に達し、神輿はそのまま宮社殿に突入します。

獅子舞

よいやさ祭りでは災厄退散の役割を果たす獅子舞が、町内を渡御する神輿に先行して露払い役をつとめています。現在山下、東町、下新町の三町内で獅子舞をしています。一番古いのが山下で天保四年(1833)に神輿渡御が始まって以来、共に歴史を刻んでいます。次いで東町で日清戦争の戦勝記念として1895年に誕生し、下新町は戦後の1951年から祭礼に加わっています。獅子舞の順は決まっています。山下、東町、下新町の順で行われていて、決して後ろの獅子が追越すことはありません。

5月2日の宵祭りで御神霊が御旅所に移されるときに、

三町の獅子は先導役を務め、神輿に御神霊が納められた後、三町の獅子は夕暮れの中で順に舞いを奉納します。

3日の本祭りでは夕方、神輿が渡御を終えて神社に戻ると三町内の獅子は、ここだけで舞う特別の所作を披露しますが、圧巻です。



屋体

以前は七体の屋体がありましたが、現在は八日町、上新町、北川・北新町、今町の御殿屋体と中新町の踊り屋体の五体が町々を巡っています。春祭りの夜も更けると、御殿屋体の軒先に下がる提灯の明かりが優雅に揺れて、夜の街並みに三味の音や屋体唄が流れます。日中みられた賑やかな獅子舞や力動感溢れる神輿の渡御とは趣を異にする情緒ある風情をみせてくれます。

各町内の屋体は町内を巡行して、祝儀をいただいた家の前で新作の唄を披露します。短冊に書かれた屋体唄の歌詞は、屋体連から祝儀をいただいた家主に贈られます。